

函館、室蘭、札幌、小樽、旭川、釧路、名寄、遠軽。徒歩や馬の背に揺られ、クリスチャンのいるところを訪ねなかった土地はないという。帯広で監獄伝道を行い、旭川では遊郭廃止と廃（はい）娼（しょう）運動に取り組み、英国人宣教師のジョン・バチエラーとともにアイヌ民族を援助した。

夫妻が伝道の終点に選んだ地は、アイヌ語で「地の果て」の意味を持つ野付牛（現在の北見）。故郷に似た風景のその地に自宅を持った。

館は、メンソレータムの近江兄弟社を創設したW・M・ヴォーリス氏の設計。米国様式の移民住宅にスイス風の山荘を取り入れたデザイン。テラスが張り出し、大きな窓は上下に開閉し、石の集合煙突があった。

敷地にカルカヤやキキョウが香り、日曜学校の子供たちが賛美歌を歌い庭の芝生で遊ぶ姿があった。同市高栄東町の佐藤全さん（78）は「夫妻のいつくしみ深いまなざしが、今でも忘れられない。深い人間愛を感じた」と話す。

夫妻は伝道の傍ら、妨害や暴力と闘いながら熱心に廃娼運動に取り組んだ。「人情味豊かで、素朴な人ばかり」と表現した北見に別れを告げ、帰国したのは1928（昭和3）年。来日から40年もたっていた。

館は後任の宣教師や信者の私邸、児童相談所と主を変えたが、68年に北見市が取得。復元し71年、ピアソン記念館としてオープンした。

記念館の1階は夫妻をしのぶ展示室。ピアソンが30年間かけて執筆・出版した「略註（りやくちゅう）旧新約聖書」の原稿、開拓者に勇気を与えた1906年製の鐘、賛美歌の伴奏に使った1878年製のオルガンなどが置いてある。

祖父の形見で、帰国に際して親友の野付牛中（現北見北斗高）初代校長の佐藤猪之助氏に贈った望遠鏡も。帰国を翌年にしたクリスマス祝会で、ピアソンは望遠鏡を手にも「普通に見ればアメリカの私達、逆に向けると私達が日本の皆さまを見られる。時折、逆さまにしてのぞいてください」と、強い哀惜をユーモラスに語ったという。

夫妻を囲んだ記念写真には、アイダ夫人がドイツ語を教えた札幌農学校の生徒、有島武郎の姿も。愛用の机、椅子が書斎風景を再現している。

2階に唐笠（とうがさ）記念室。医師で俳人の唐笠学氏が39年、主なく荒れ果てた館を買い取り、大修理して14年間、住宅兼集会所として使用し館の保存に尽力した。

館の周囲は都市化した。敷地、隣の「ピアソン公園」の緑とさえずる小鳥は当時のまま。1本残ったカシワの老木が、誰にも優しくった夫妻の人柄を語りかけるようだ。

Data

ジョージ・ベック・ピアソン（1861年生まれ）は宣教師として明治21年来日。明治学院での教職生活などを経て北海道に渡り、各地で伝導活動の後、大正3年に北見市へ移住。昭和3年、15年にわたる日本での伝導活動を終え帰国。

住 所：北見市幸町7丁目4番28号（JR北見駅から徒歩15分）

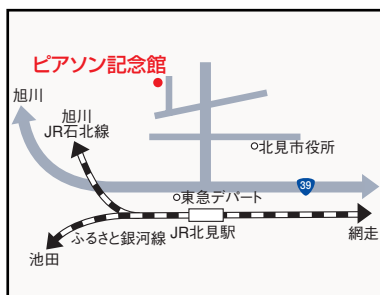
建 築：1914年（大正3年・1970年修復）

建 物：木造2階建て（約180㎡）

展示品：オルガン・愛用の机・銀杯・ランブ・教会の鐘・著書等

休館日：月曜、祝日の翌日、年末年始

入 場：無料（9：30～16：30）



●お問合せ先

北網圏北見文化センター

Tel.0157-23-6700

ピアソン記念館

Tel.0157-23-2546

で、会員は約110人。敷地の樹木に樹名板を取り付け、花壇を整備してきた。

今年5月に同館で「童馬、直寛とピアソンの絆（きずな）展」を開催。前庭で7月6日に開いたグリーンコンサートには300人が来場した。小中学校の吹奏楽、看護学校生のハンドベル、大人の混声合唱があり、紙芝居も演じられた。

同館の昨年度の入場者は4666人。北海道遺産に指定されて観光バスが次々に止まるようになり、入場者の大幅増は確実だ。市は駐車場の新設、トイレの増築などに取り組んでいる。同センターは「この機会を生かし、ハッカ記念館とセットでアピールしたい」と話している。